



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム）の記録 対象：大学生招へい（カナダ）

1. プログラム概要

カナダから大学生及び引率者 49 名が 2020 年 2 月 16 日～2 月 23 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

カナダ：49 名

（内訳）

グループ A(24 名)：トロント大学

グループ B(25 名)：オタワ大学、カールトン大学

【訪問地】

東京都、宮城県

2. 日程

2/16（日）	【来日】	
2/17（月）	【オリエンテーション】 【講義】 横浜国立大学准教授 長谷川 健治 氏 【視察】 皇居 東京都から宮城県へ移動	
2/18（火）	(1) グループ A：南三陸町	(2) グループ B：登米市
	【学校交流】 東北大学	
	【ホームステイ対面式】	【ホームステイ対面式】
2/19（水）	【ホームステイ】	【ホームステイ】
2/20（木）	【ホームステイ歓送会】 【視察】 石巻市復興まちづくり情報交流館・日和山	【ホームステイ歓送会】 【視察】 松島（瑞巖寺・五大堂）
	【ワークショップ（報告会準備）】	
2/21（金）	宮城県から東京都へ移動 【視察】 カナダ大使館 【成果報告会】	
2/22（土）	【視察】 浜離宮恩賜庭園	

	【視察】Honda ウェルカムプラザ 青山 【視察】日本オリンピックミュージアム 【視察】明治神宮	【視察】日本オリンピックミュージアム 【視察】明治神宮
2/23（日）	【視察】江戸東京博物館 【視察】赤坂迎賓館 【離日】	

3. プログラム記録写真

全グループ（東京都・宮城県）

	
2/17【オリエンテーション】	2/17【講義】横浜国立大学准教授 長谷川 健治 氏
	
2/18【学校交流】東北大学	2/20【ワークショップ（報告会準備）】

グループ A（訪問地：宮城県本吉郡南三陸町）



2/18【ホームステイ対面式】



2/19【ホームステイ】



2/20【ホームステイ歓送会】



2/20【視察】石巻市復興まちづくり情報交
流館

グループ B（訪問地：宮城県登米市）



2/18【ホームステイ対面式】



2/19【ホームステイ】

	
2/20【ホームステイ歓送会】	2/20【視察】松島（瑞巖寺・五大堂）

4. 参加者の感想（抜粋）

グループA（訪問地：宮城県本吉郡南三陸町）

◆ 最初に日本理解講義を聴講し、その後のプログラムがより意義深いものとなりました。日本各地の特色、特に東北地方の特色を理解でき良かったです。東北大学との交流プログラムではお昼を食べながら学生と1対1で交流することができました。ホームステイはプログラムの中でも印象的で、ホストファミリーから日本の漁業について学びました。

◆ 日本理解講義を通して日本をより深く知ることができました。日本の歴史、経済、政治についてあまり知りませんでしたが、日本についてもっと知りたくなりました。次回機会があれば、生物医学を研究している学生として、日本が世界でも秀でている産業、研究分野、技術分野について知りたいと思いました。学校交流では、大学生活がどういうものかカナダと比較して体験することができました。東北大生が企画した文化交流は有益で楽しいものでした。折り紙や最新のトイレについてばかりでなく、日本人の余暇の過ごし方や方言についても学びました。また多くの東北大生と友達になり大変嬉しかったです。ホームステイはプログラムのハイライトでした。日常生活、お風呂、食事を体験することができ日本と日本人について理解することができました。特にホストファミリーと写真や思い出を共有することができて良かったです。これこそが「カケハシ・プロジェクト」が目的とする真の交流で、互いの文化の深い理解につながったと思います。歓送会では感極まり泣いてしまいました。このような絆は一生忘れません。今もSNSでホストファミリーとつながっています。大使館訪問は、日本との関係を題材にした講義があるとさらに有意義な訪問になったと思いました。

グループB（訪問地：宮城県登米市）

◆ ホームステイ体験は非常に印象的でした。地方の生活についてより理解することができ、文化交流も体験できました。ホストファミリーは優しく、私達のことを気遣ってくれました。着物体験も楽しかったです。気仙沼の震災遺構を訪れて、日本の人々が困難に負けず力強く復興に取り組んでいることがよくわかりました。

◆ 学校交流では学生の英語力の高さとカナダに対する興味に感激しました。日本の地方での文化について様々な側面からすばらしいプレゼンテーションをしてくれて、将来、再び来日したいと思える良いきっかけとなりました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー

着物の着付け、日本料理、茶道等日本文化の体験を喜んでくれて安心しました。学生は、メイプルシロップやカナダの大切なシンボルや文化などを教えてくれました。学生はまじめで誠実、礼儀正しく、学ぶ意欲が旺盛でした。特に宮城県気仙沼向洋高校の震災遺構の見学では、被災者からの講話を聴きながら震災や復興について集中して学んでいました。

◆ 学校交流参加学生

学校交流を通して、最初は、日本の文化や大学について知ってもらおうという思いが強かったのですが、カナダの文化についてもたくさん知ることができました。これはカナダの学生が、自分たちの情報を発信しようという意欲にあふれていたからだと思います。私たちがカナダに行った時も相互に学ぶという意識を持つことが大切であると感じました。また、カナダの学生が日本のことについてすでに多くのことを学んでいたことが嬉しかったです。交流では、相互理解は人間関係を豊かにすることを体感することができ、SNS等の連絡先も交換しました。今後は、日本の魅力を発信し、カナダのことについても学習していきたいです。

6. 参加者の対外発信

	
視察についての発信 (Facebook) 石巻市復興まちづくり情報交流館では、東日本大震災時における津波の高さを示しています。	学校交流についての発信 (Instagram) 数日前に東北大学で撮った写真です。文化交流をして新しい友だちがたくさんできてとても楽しかったです。「ありがとう」

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 #1 Kakehashi Information Reporting Session <table border="1"> <thead> <tr> <th>Purpose</th> <th>Actions</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>• To share experiences in person with people interested in Japan</td> <td>• Prepare a presentation comprised of the highlights of the Kakehashi Project</td> </tr> <tr> <td>• To attract future Kakehashi participants by promoting various aspects of Japan</td> <td>• Show our experiences, further introduce the Kakehashi Project, through Q&A sessions</td> </tr> <tr> <td>• To answer questions about the Kakehashi Project and about Japan in general</td> <td>• Promote our reporting session through the use of the UoT EAS Department and UTJA</td> </tr> </tbody> </table> The KAKEHASHI Project Building New Bridges of Friendship and Cooperation Between Japan and the United States!	Purpose	Actions	• To share experiences in person with people interested in Japan	• Prepare a presentation comprised of the highlights of the Kakehashi Project	• To attract future Kakehashi participants by promoting various aspects of Japan	• Show our experiences, further introduce the Kakehashi Project, through Q&A sessions	• To answer questions about the Kakehashi Project and about Japan in general	• Promote our reporting session through the use of the UoT EAS Department and UTJA	 LONG-TERM IMPLEMENTATION • Word of mouth ○ Friends, coworkers, classmates, family, etc. • Others ○ Mini-publicity (Posters in offices) ○ Promotion of the Kakehashi Project
Purpose	Actions								
• To share experiences in person with people interested in Japan	• Prepare a presentation comprised of the highlights of the Kakehashi Project								
• To attract future Kakehashi participants by promoting various aspects of Japan	• Show our experiences, further introduce the Kakehashi Project, through Q&A sessions								
• To answer questions about the Kakehashi Project and about Japan in general	• Promote our reporting session through the use of the UoT EAS Department and UTJA								
アクション・プラン 1 日本滞在のハイライトを含むプレゼンテーションを準備し、トロント大学東アジア研究学部およびトロント大学日本協会（UTJA）のネットワークを活用し報告会を開催し、滞在中の体験、経験を共有し、質疑応答の機会を設ける。 アクション・プラン 2 テーマ：二国間の架け橋 帰国後ミーティングを行い、それぞれの、役割を決めて、東北大生がカナダに来る前にトロント大学学生を対象に日本料理教室を開く。東北大生に向けてトロントとグループごとに様々な視点でのカナダ文化に関するプレゼンテーションを準備する。	アクション・プラン 1 テーマ：いっしょに レザミ（フランス語） • Facebook , Instagram , Twitter , Snapchat, Wordpress, YouTube, LinkedIn などの SNS を活用し、投稿をする。 • 大学のクラスやクラブ、高校での発表。 • 日本料理を一緒に作るイベントを実施。 • 友人、同僚、学校の友達、家族などに体験を伝える。 • 事務所にポスターを貼り、カケハシ・プロジェクトの広報活動をする。 アクション・プラン 2 • SNS で日本での体験を投稿。 • 大学の学部でのニュースレターを作成する。 • 自然災害を意識するよう呼びかける。 • インターネットテレビやオーディオブックの活用をする。 • カケハシ・プロジェクト同窓会のネットワークを活用する。 • カケハシ・プロジェクトで出会った人々との繋がりを大切にする。								